

父母の心を持って人類を愛す

東鷹野町 山田 昇



八月、六日は広島、九日は長崎の原爆記念日。そして、十五日の終戦記念日、英霊に対し黙祷を捧げる合図のサイレンがなります。私は姿勢を正し、黙します。平和を願うに、理不尽であった太平洋戦争の戦禍で「いのち」を亡くした人々の思いは如何ばかりであったらうと想いやり、今、自分が安穏な日々を過ごせることを有り難く思い、感謝することを忘れてはならないと心しています。

幼い日の追憶の一コマ、三歳の時、父の仕事の関係で満州に渡り、敗戦色の濃くなった昭和二十年三月末に帰国をしました。その時のことを兄が折に触れて



満州の杏樹・官舎前にて

兄はそのことを後で聞いて、私のお陰で命拾いをしたと言います。あの時の私の熱は何の熱であったか、なかなか下がらず母に背負われて当時ロシアの国境に近い所から朝鮮半島を南下し、釜山経由の船に乗っての帰国でした。

紀も十四年、あらゆる動きがグローバルになり、ますます人類は平和を保たなければいけない状況になっていると思われ、国々の為政者たちの思いのズレで、いつも何処かで紛争が起きています。

あれから六十八年、今も、あの時の私の下がらなかった熱はなんの熱であったのだろうか？また、深刻な事態へ追いやられていけば、残留孤児となっていたかもしれないという想いを重ねて、今、七十五歳の日々を平穩無事で過ごしてられる、この「いのち」の中に、何か目に見えない不思議な力の働きがあったのではと耽るのです。

真の平和は、それぞれの国の歴史、環境、思考を尊重し、一人一人の「いのち」の尊さを念じ合い、題名にしました私が座右の銘、「父母の心を持って人類を愛す」を一人でも多くの人が胸に刻んでいただけたら叶うのではないかと祈願しているところです。



受け継がれていく思い

桜町 武田 美由紀



昨年末、娘が生まれました。初めて胸に抱いた時、何とも言えない幸せな気持ちで一杯になりました。今でもあの温もりや重みを思い出すと、あたたかい気持ちで満ちてきます。子どもは生まれてくるだけでたくさん幸せをもたらし、周りを明るくしてくれることを実感しました。

子育ては大変で孤独な思いにとらわれる時もありますが、私が思う以上に多くの方が支えてくれると気がきました。また力だけでは子どもは動かない、ということも教えていただいたように思います。

一人一人の命の尊さや輝き、それを尊重する平和な世界を願う私たちの心も、受け継がれていくはず。生まれてきたことの素晴らしさや命の輝き、自分を支えてくれる人が必ずいる、そして自分も誰かを支えることができること、力だけでは解決しないとしたらどうしたらいいかなど、お風呂の湯船に浸かりながら、また寝る前のひとときの中で、子どもと一緒に話したり考えたりしてみたいと思っているところです。

「111111のついでです」不意に言葉をかけられ、あわてて振り向くと高校生ぐらいの少女が、ここにことほげえんでいた。目過の湯が新しくなり一年半以上経過した。オープンした当初は、訪れる大勢のお客さんとともにいもあつたが、しだいに慣れて皆譲り合いながら入浴できるようになってきた。



とはいえ、日々の子育てはうまくいかないことの連続です。息子がもつと幼かった頃ですが、雨に濡れたアスファルトにぐずってひっくり返り、全く動かないことがありました。力づくで引っ張って行こうとする私の横を、リハビリも兼ね

さてこの写真、「昭和何年頃のものかしら？」とご覧になるかもしれません、一年半程前



雪が降ると学校へ通う途中の坂道が大変だが、漢字検定に挑戦中だなどと頑張っている話を聞かせてくれる。

今度会うときは、どんな話を聞かせてくれるのだろうかと思うと心の奥がほんわかと温かくなって。 (篠遠)